

理学療法学科学生を対象とした病院見学実習事前学習教材の開発

Educational Videos for the students of Physical Therapy to participate in an Observational Study in Hospitals

山城 新吾, 柳澤 幸夫

Shingo YAMASHIRO, Yukio YANAGISAWA

徳島文理大学

Tokushima Bunri University

Email: yam@tokushima.bunri-u.ac.jp, yanagisawa@tks.bunri-u.ac.jp

あらまし：入学後初めて病院見学実習に参加する理学療法学科の初年次学生を対象として、病院内での行動、病院スタッフや患者とのコミュニケーション、リハビリテーション見学時の注意点など、実習における適切な態度を学ぶための、事前学習用映像教材を開発した。また病院見学実習の前に本教材を使用した学習を行い、教材を使用しなかった前年度の学生と、実習態度に関する評価点の比較を行った。

キーワード：理学療法、病院見学実習、事前学習教材、映像教材

1. はじめに

徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科では、1年次の学生を対象として病院見学実習（臨床実習Ⅰ）の授業を実施している。病院などの各実習施設ひとつにつき学生2～3名のグループで訪問し、5日間の見学実習を通して、医療機関における理学療法士の業務や役割についての基本的な理解を得ることを目的としている。また、学生の実習態度や実習施設・理学療法の理解について、実習先の担当者が評価を行っている。

病院見学実習に参加する予定の学生を対象として、病院における振舞い方や、病院スタッフ・患者との適切なコミュニケーション、リハビリテーション見学時の注意点などを事前に学習する時間を設けている。これまでの事前学習では、テキストの配布・確認や、教員・先輩学生の話を中心としてきたが、病院内の様子や具体的な振る舞い方がイメージしづらい等の課題があった。

本研究では、病院見学実習（臨床実習Ⅰ）における評価点のうち、学生の実習態度の改善に焦点を当

てた事前学習用映像教材「病院見学実習あるある」を開発した。

2. 映像教材「病院見学実習あるある」

開発にあたり、病院見学実習に参加する学生に求められる（トラブルになりやすい）実習態度について、実習先における学生のトラブル事例も参考にしながら、11項目のカテゴリとして整理を行った。その結果を表1に示す。

11項目のカテゴリと、それぞれのカテゴリの中で扱う内容について学生に深く理解させるため、各カテゴリについてBAD編の動画（実習態度について、実習生がおかしやすい間違い）とGOOD編の動画（何故間違っているかの解説と適切な行動）の2種類、計22本の動画を作成した。また、BAD編に登場する実習生の行動のどこが間違っているかを考えさせて記入させるためのワークシート・および解答例のシートもあわせて作成した。現在インターネット上で公開している本教材のアドレスをQRコード（図1）で示す。

表1 病院見学実習における学生の実習態度についての整理

1. スタッフとの挨拶	挨拶 担当者や動き方についての情報
2. 廊下での移動	他の通行の妨げ 私語 挨拶 大きすぎる声
3. エレベータの利用	階段優先 患者の手助け 待ち位置
4. 病室の出入り	入退室の挨拶
5. 病室での見学	見学位置 挨拶 患者についての情報の扱い
6. 訓練室での見学	見学位置 挨拶 周囲との関係
7. 休憩時間	携帯等 寝る 私語 たばこ
8. みだしなみや自己管理	白衣の汚れ・しわ 頭髪 においや体臭 体調管理
9. ルールの理解と順守	遅刻 指示の理解 トラブルの未報告・自己解決
10. 指導者との関係	疑問点・不明点の放置 指示された課題への対応 見学中の記録
11. 患者さんの家族への対応	挨拶



図1 「病院見学実習あるある」公開ページ

具体的な指導方法としては、まず BAD 編の各動画を視聴し、映像に登場する実習生の行動のどこが問題なのか、どのように行動すれば良いのかをワークシートに記入、その後 GOOD 編の各動画を視聴し、あっていたか間違っていたかを確認させる。

BAD 編の動画からのスクリーンショットを図2に、図2に対応する GOOD 編の動画からのスクリーンショットを図3に示す。



図2 エレベータの利用・BAD 編2



図3 エレベータの利用・GOOD 編2

3. 本教材を使用した事前指導の実施

平成28年度の病院見学実習（臨床実習Ⅰ）受講生63名を対象に、本教材を使用した事前指導を行った。また、実習終了時に学生の実習態度について、実習先施設のスタッフが評価を行っている。その評価項目は次の通りである。

1. 挨拶や適切な言葉使いができる
2. 実習施設の規則や時間を守ることができる
3. 服装や身だしなみに配慮ができる
4. 自分自身の健康管理ができる
5. 職員や他の実習生と協調できる
6. 対象者とのコミュニケーションができる
7. 対象者のプライバシーを守る事ができる
8. 積極性がある
9. 指導や助言を受け入れることができる
10. 報告・連絡・相談ができる

上記10項目について1～5の5段階評価、合計50点満点で集計を行った。

教材を利用した平成28年度63名の成績と、利用していない平成27年度60名の成績を比較して教材が成績の向上に影響を与えているか調べた。両年度の実習生は異なっているが、実習先の病院(実習態度の評価担当)および評価項目は同一である。2つの年度の成績について比較した。

表2 平成27・28年度の実習態度成績比較

	平成27年度(なし)		平成28年度(あり)	
46-50点	13	21.7%	24	38.1%
41-45点	23	38.3%	22	34.9%
36-40点	14	23.3%	11	17.5%
31-35点	5	8.3%	3	4.8%
26-30点	3	5.0%	3	4.8%
21-25点	2	3.3%	0	0.0%
0-20点	0	0.0%	0	0.0%
合計	60人		63人	

表2では全体的に低い点数の学生が減って、高い点数の学生の割合が増えたことがわかり、全体的に実習生の実習態度が改善されたように思われる。参加した学生を対象に聞き取りを行った結果では、病院や実習の具体的な様子が事前に理解できたため、実習ではあわてなかったという声もあった。また実習先からのクレームも減少した。

平成27年度の実習生全体と平成28年度の実習生全体との平均値の差の検定を行ったが、t値は1.94となり、5%の棄却域には入らなかったため、両者の学生について有意な差はなかった。教材自体の改善も含めて今後の課題とする。

謝辞

教材を開発と実践にあたり、徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科の先生方及び撮影に協力していただきました理学療法学科の学生の皆様、編集に協力していただきました人間生活学部メディアデザイン学科の学生の皆様、医療法人緑会・小川病院の皆様、鳴門市民有志の皆様、徳島市作業療法士有志の皆様に、心より感謝を申し上げます。